

第5学年〇組学級活動（1）指導案

指導者 福岡市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇

1. 活動題 「き・ず・なレクリエーションをしよう」
議題 「『き・ず・なレクリエーション』の計画を立てよう」

2. 議題選定までの経過

- 議題ポストの中に、①「クラス全員が仲良くなれるような集会所がしたい」という議題と②「係活動がよりよい活動になるように工夫したい」という議題が入れられていた。そこで第1回計画委員会が開かれ、議題選定が行われた。②については、学級活動（2）で話し合うことになった。①について、クラス替えをして5ヶ月が経ち、クラスの友達の良いところも分かってきたし、クラス全体がもっと仲良くなれるように工夫したいという理由から次の学級会で話し合うことになった。その際、第2回計画委員会にはクラスの集会係も入ってもらうことにした。その後、計画委員会がクラスに議題を発表した際に、集会係が今度の集会所で何がしたいかアンケートをとった。その結果をもとに第2回計画委員会が開かれた。アンケートを集約し、検討する中でいくつかの種目を集めたオリンピックのような大会にしたいという内容で話し合いが進められた。そして、みんながやってよかったと思う集会所にするためには、どんな種目を行ったらいいのか具体的に話し合われた。その結果、種目は（Ⅰ）男女関係なくみんなが仲良くなれるようなもの（Ⅱ）これまで行ったことがないもの、という2つの条件を満たしていることが必要であることが分かってきた。

このような条件が満たされる種目を盛り込んだ集会所活動を行うことで、子ども達はアイデアを出し合い、友達と協力しながら楽しく活動することができると思う。また、1つの集会所をみんなで実施する喜びを味わうことができる点からも本議題は意義あるものと思う。

- 本学級の子供達は、3・4年生と2年続きの学年であったため固定した人間関係が未だに残っていたり、男子と女子が別れて行動したりするところが見られる。また教師の指示に従って行動はできるが、自分たちでアイデアを出し合って行動することを苦手とする子供も多い。この集会所を行うことでクラス全員と仲良くなり、よりよい集会所にするために子供達がアイデアを出し合うことで、創造性が高まると期待できる。

3. 学級経営・組織作りとの関連

本学級では、学年当初に「こんな学級にしたい」という思いを一人一人が出し合い、それをまとめる形で学級目標を作った。学級目標は「き・ず・な」である。これは、き（「気持ち」優しく）・ず（「ずるしない」自分に正直に）・な（「仲良く」楽しく）という気持ちが込められている。この目標を達成するために、「クラスルールカード」でふり返りをさせたり、日記でルールを守れているか感想を書かせたりしてきた。

学級会の組織としては、2学期から、計画委員会を中心に適切な議題を選定し、輪番制の司会グループの進行によって学級会を運営するなど、主体的で自主的な活動の実践に向け努力しているところである。

本議題においても、計画委員会、提案者、集会係を中心に、本議題の活動計画から集会所までお世話できるようにする。また、集会所では種目の事前準備やチーム編成においては、学級全員で役割を分担して協力して活動を進めるようにしたい。

4. 指導にあたって

①事前

募集した種目から（Ⅰ）男女関係なくみんなが仲良くなれるようなもの（Ⅱ）これまでに行ったことがないものの条件に絞り込み、計画委員が帰りの会で提案する。また、学級会個人ノートを用意し、提案理由に沿って、自分の考えとその理由を書かせておく。提案者に対しても、興味・関心を高める提案方法を工夫させておく。

②本時

話し合いの柱1においては、いくつかの種目の中から、3つの種目に決める話し合いを行う。また、話し合いの場面を「提案」「質問」「交流」「まとめ」「決定」という5場面に分けて進めることで子ども達が話し合いの中身や流れを把握しやすくする。話し合いの中で決定されなかった意見は、日常活動の中で取り組んでいくよう、配慮しておく。

話し合いの柱2においては、集会を盛り上げる工夫を挙げさせ、集会を成功させたいという意欲を高めておく。

③事後

計画委員会、提案者、集会係を中心に活動計画や役割分担表を作成し、教室に掲示しておく。集会当日は、1人ひとりが活躍する場を応援、賞賛し、友達のよさに気付かせ、達成感を味わわせるようにする。また、集会を振り返り、クラス全員が協力することによって、集会を成功させることができたことを賞賛する。

5. 目標

- 「き・ず・なレクレーション」の取り組みについて、主体的に話し合い活動に参加、実践していこうとしている。(関心・意欲・態度)
- 提案理由に結びつけながら、よりよい活動決定していくことができる。(思考・判断)
- 自分の考えを持って話し合いにのぞみ、話し合いの流れに沿って、発言することができる。
(技能・表現)
- 意見が分かれた時のよりよい解決の仕方を理解している。(知識・理解)

6. 指導計画

(1) 事前の活動

日時	子どもの活動	教師の指導と援助
10/5 (昼休み)	1 学級会の議題について第1回計画委員会で検討し、全員の承認を得る。	○ 適切な議題を選ぶことができるよう、計画委員会に参加し、助言する。
10/8 (帰りの会)	2 「き・ず・なレクリエーション」の種目を募る。	○ 特定の子どもが活躍する種目に偏らないよう助言する。
10/9 (昼休み) (帰りの会)	3 第2回計画委員会で種目を集約し、話し合いの柱を決定して全員に予告する。 (計画委員会・提案者・集会係)	○ (Ⅰ) 男女関係なくみんなが仲良くなれるようなもの (Ⅱ) これまでに行っていないものという視点で種目を絞り込むように助言する。絞り込んだ話し合いの柱を教室に掲示させる。
10/13 ～(随時)	4 学級会に向けて準備をする。 ・種目提案者の発表準備	○ 発表者は、その活動の意義や内容など分かりやすく伝い得る方法を考えるよう助言し、提案の仕方を工夫させる。
10/14 (スキルタイム)	・自分の考えの整理	○ どの活動を行いたいのか、またレクリエーションを盛り上げるための工夫について自分の考えとその理由を学級会ノートに書かせておく。
10/16 (昼休み)	・進行についての打合せ	○ 司会グループと学級会の進め方について再確認する。

(2) 本時の活動

本時 平成21年10月19日(月) 第5校時 於: 第5学年〇組教室

① ねらい

- 「き・ず・なレクリエーション」に向けて, 出された提案の中からみんなで取り組みたいことを決めることができる。
- 活動を盛り上げる工夫を出し合い, 具体的に活動をイメージすることができる。

② 活動計画

話し合いの順序	指導上の留意点
1 始めの言葉 2 司会グループの自己紹介 3 議題の確認と提案理由の説明 ○ 議題	○ 明るく元気な声で, あいさつや自己紹介ができるように事前に練習しておく。 ○ 提案理由の大切な部分を, 板書でも強調しておく。
「き・ず・なレクリエーションの計画を立てよう」	
○ 提案理由	
男女関係なく, クラスみんながもっと仲良くなれるようにしたいから。	
4 話し合いのめあての確認	
男女関係なく仲良くなれて, これまでに行ったことがない種目を3つ選ぼう。	
5. 先生の話	○ 提案理由, 話し合いのめあてに沿った話し合いになるよう, もう1度確認する。
6. 話し合い 柱① 活動内容を決めよう (1) 提案タイム (2) 質問タイム (3) 交流タイム (4) まとめタイム (5) 決定タイム	○ 具体的な説明などを入れながら提案できるように準備をしておく。 ○ 話し合いが行き詰まりそうになったら, 子ども達が提案理由や話し合いのめあてに立ち返ることができるような助言をする。(司会者にも事前に声掛けをしておく。)
柱② 活動を盛り上げる工夫を出し合おう	○ はっきりと大きな声で言うように伝えておく。 ○ 子ども達の感想を見て, 先生の話で生かせるようにする。
7 決まったことの発表	
8 話し合いの振り返り (自己評価と感想)	○ 話し合いで決まったことよき, 司会グループ, 提案者への労い, 集会への意欲付けなどを行う。
9 先生のお話	
10 終わりの言葉	

(3) 事後の活動

日時	子どもの活動	教師の指導と援助
10/26 (昼休み)	1 役割分担をする。 (計画委員・司会グループ・提案者・集会係)	○ 活動計画や分担表を教室に掲示して活動意欲を高めるようにする。
11/10 ～18	2 活動の準備をする。(全員)	○ 自主的に準備を進める姿を賞賛し、活動への期待感が膨らむようにする。
11/19	3 「き・ず・なレクレーション」を実施する。(全員)	○ 活動をスムーズに行えるよう、各担当に助言する。
11/19 (帰りの会)	4 活動全体をふり返る(全員)	○ クラスで出し合った活動の盛り上げる工夫を生かし、協力して活動することで全員が楽しめる集会ができたことに気付かせ、これからの学級活動の意欲につなぐ。

7 評価

- 学級生活がよりよくなるように、自分たちで集会を計画・実行し、学級の一員としての自覚や連帯感を深め、満足感、達成感を味わうことができたか。(関心・意欲・態度)
- 「集会」のねらいに沿った自分の考えを作ったり、準備や練習で友達と工夫・協力することができたか。(思考・判断)
- 自分の考えを友達にわかりやすく伝えることができたか。(技能・表現)
- 話し合いで決まったことがわかり、自分の役割を果たすことができたか。(知識・理解)